

4. 会員の新規加入等について
新入会員44名を承認, 退会3名. 5月16日現在,
会員数4,395名(内, 通常会員3,921名).
5. 2003年度総会資料について
資料を確認した.
6. アジア・オセアニア地球物理学学会(AOGS)への参

加について

2004年7月にシンガポールで開催される第1回アジア・オセアニア地球物理学学会大会へ, 津田会員が台湾と共同でセッションを提案している. 日本気象学会は第1回AOGS大会を後援する. 費用の負担はない.

第32期第4回理事会議事録

日時: 2003年5月21日(水) 18時00分~19時30分

会場: つくば国際会議場403号室

出席者: 廣田, 古川, 伊藤, 岩崎, 勝山, 神沢, 木田,
近藤, 佐々木, 住, 田中, 津田, 中澤, 新野,
藤部, 藤吉, 萬納寺, 山内, 米谷, 以上19人

その他の出席者: 栗原(東北地区後任理事候補者),
田口(産業総合研究所),
菅田(国立環境研究所), 木村(筑波大学);
以上3人実行委員会, 館(事務局)

議事に先立ち, 廣田理事長から春季大会が順調に行われていること, 総会成立の要件を満たしていることが紹介され, 実行委員会に感謝の意を表明した.

議事:

1. 2005年度日本気象学会春季大会の担当機関について
2005年春季大会は東京大学が担当する.
2. 支部活動の費用について

2003年秋季大会の会場使用料増加による大会交付金の増額が東北支部から依頼され, 常任理事会で承認したことが報告された.

関連して次のような意見が出された.

この先10年くらいの学会の財政基盤をどうするか
の計画が必要である. 大会の運営に労力をつぎ込んで
安い参加費を維持するのか, 人を雇って参加費を
高くするのか, という選択肢がある.

東京の夏季大会は一般から参加費を集めて開催し
ていて, 黒字である. 会場費と謝金は払っているが,
ボランティアの労力提供もある. 大阪では講演会など
で無料だと人がたくさん集まるが, 有料だと人が
来ない.

研究を標榜する機関は学会活動を支える義務があ

る. 大学が独法化されると機関の裁量でお金が使え
るようになり, 研究者の大会への参加費や登録料な
どを研究費で負担できるようになるだろう. 参加費
や登録料を研究費から払える人は払う, 払えない人
は控除というような工夫が必要. 競争的資金で研究
費には大きなお金が流れている.

文科省への申請など, 支部活動の経費を工面する
ように工夫, 努力してほしい. うまく行く事例を作
れると良い.

3. 2003年度総会資料について
資料を確認した.
4. IUGG2003について
すでに3000人が登録したが, 会計上は楽観できな
い. 準備は順調だが, SARSの影響が懸念される.
また, アウトリーチの計画が報告された.
5. その他

日本気象学会は, 2004年7月にシンガポールで開
催される第1回アジア・オセアニア地球物理学学会大
会を後援する. 費用の負担はない.

東アジアの気象学会の交流を進めるため, 韓国,
中国の気象学会の研究者を招待した. しかし, 中国
からの参加予定者がSARSの影響を配慮して来日
を取り止めたため, 韓国からの招待者だけとなった.

実行委員会から, 経費で苦労したとの報告があっ
た. 今回は試行で4日間開催したが, 3日で5会場
か, 4日で4会場か, という選択肢がある.

平成15年6月16日

社団法人日本気象学会

議長 萬納寺信崇

署名人 勝山 税

署名人 古川 武彦